

氏 名：小林 みゆき

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第 230 号

学位授与年月日：2022 年 9 月 20 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 奥 裕美（聖路加国際大学教授）

副査 瀬戸屋 希（聖路加国際大学教授）

副査 亀井 智子（聖路加国際大学教授）

副査 山崎 修治（医療法人学術会 木村病院 看護部長）

論文題目：精神科救急入院料病棟における退院支援のためのトランジショナルケアプロトコルの実装と評価

博士論文審査結果

患者の不要な長期入院を防ぎ、地域生活への移行と安定した生活の維持を支援し、再入院を削減するトランジショナルケアの必要性が高まっている。本研究は A 病院精神科救急入院病棟において、効果が検証されたトランジショナルケアプロトコルの一つである **Connect-Home** を修正した「A 病院版 **Connect-Home**」を実装し、評価することを目的として実施された。プロトコルは患者の入院初期から医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士等多職種が同一の情報集約書式を用いて患者に関する情報を共有し、多職種カンファレンスにおいて連携を図り、退院に向けた支援を行うものである。PDCA サイクルを用いた質改善アプローチを実施し、実装アウトカムとして、プロトコルの到達度、忠実度、実行可能性、適切性を多職種スタッフ 36 名への質問票、インタビューにて確認した。また、患者 65 名（対象群 23、介入群 42 名）に **CTM-3®**（**Care Transitions Measure-3**）日本語版及び **CSQ-8J®**（**Client Satisfaction Questionnaire**）日本語版への回答を依頼し、効果アウトカムを測定した。結果、到達度、適切性、受容性は概ね高い傾向を示し、忠実度のうちカンファレンスの開催、支援目標に対する評価報告率は全職種から高い水準、あるいはサイクル毎の上昇が見られた。一方、医師の支援目標記載率はやや低く、実行可能性も低かった。**CTM-3®**は総得点の中央値が介入群において高く、中でも病院職員が患者や家族の意志を尊重した支援をしたか否かについての回答の中央値は両群に統計的に有意な差を認めた（ $p = 0.023$ ）。**CSQ-8J®**の総得点の中央値は両群に差はなかったが、四分位範囲は 8 項目中 7 項目で介入群のほうが高値であった。

審査は 2022 年 7 月 27 日に実施した。早期に退院しても再入院率が高いという精神科医療の重大な課題を踏まえ、A 病院の課題と現状を丁寧に分析し、患者を中心とした真の退院支援につながるプロトコルの実装を多くの関係職種との

協働の下に実施したこと、明確に論述されたことは、専門看護師である研究者の卓越した実践能力を示すものとして高く評価された。一方、COVID-19 感染拡大の研究結果への影響、実装中に改善した書式の具体的な修正内容と実践面での変化を記述すること、量的結果は必要な情報を過不足なく記述し一目でわかる表とすること、その際 APA 方式に則ること、仮説に対する質的調査結果に基づく記述の表現を工夫すること、さらに組織内でのプロトコルの定着と他組織への波及に向けた今後の展望について考察することについて、修正の必要性が指摘された。

修正後の論文では上記の点について適切に修正されていることを審査員で確認した。

本研究の実装期間は 3 カ月間と短く、退院後の患者の実際の再入院率の変化を確認することはできていない。しかし、結果は精神科救急入院病棟におけるトランジショナルケアプロトコルの実装が患者の退院支援の質改善に活用できることを支持し、そこに関わる高度実践看護師の役割の重要性を示すものであることから、今後の発展可能性は極めて高い。

以上により本論文は本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。